

鉄砲洲神社詩吟 素読論語解説
(平成 26 年 4 月 1 1 日)

【二十六】子曰く、君子は泰にして驕らず。小人は驕りて泰ならず。

孔子が言うには、君子は、のんびりゆったりしているけれども、驕り高ぶりはしない、威張りはしない。逆に小人物は、人様の前では威張ってばかりいる。しかし心からゆったりと寛いでいるところは見ることがない。

【二十七】子曰く、剛毅木訥は仁に近し。

有名な科白です。「剛毅木訥」と「巧言令色」は対の言葉になります。論語の中で「仁」は大事な言葉です。

孔子は、仁に近い性質は、剛毅木訥。剛毅木訥がすべてあれば、素晴らしい人物であると言えましょう。

剛は強くて無欲な人物です。毅は勇気のある人間、果敢に動く。木は質朴、正直。訥は訥々として喋り、見たところあれはバカではなかろうかという大愚がある。(大いなる愚か者は素晴らしい人物である) この四つが備わっている人物が「仁」に一番近い人間であると言えましょう。

ちなみに「巧言令色 鮮きかな仁」は、剛毅木訥とは正反対の言葉です。口先だけの人間は、世の中に非常に多いけれども、そういう人達は仁から遠ざかっている。軽々しく軽薄な人物であると論語の中に書かれています。